

事例振り返り事故防止

リフト荷物課題に

名備運輸

【愛知】名備運輸（丸川靖彦社長、愛知県小牧市）は8日、全社員を集めて安全推進決起大会を開き、2022年度の事故減少に向けて前年度に多かった事例を振り返りながら、原点復帰し事故防止に取り組む姿勢を示した。（梅本誠治）

安全活動取り組みを発表

安全への重点施策とし、図るとともに、ヒューマンエラーの防止に向けて昨年1クワの荷物事故撲滅から始めたUFO（うっか）を一番の課題に選定、トラウマ、不注意、横着の意識を、リフトの取り扱いと同様、具をいっそう高めることを再体的な作業手順の明確化を 確認した。

丸川社長は「4月は全ての事故が月間でゼロと、幸先のいいスタートを切った。21年度の売上高も前年度から10%伸びて増収となり、6億円への復帰も見え



「皆で考えて話し合う文化を持つ社内風土を育てることが重要」と丸川社長

てきた。一方で、車両事故は最少ながら、燃料費の高

騰や弁償金額の増加などで減益となっているのが現状と説明。その上で「皆の給料を上げるための運営交渉において、事故に占める割合の多い荷物事故は会社の信頼に大きく響く。今年は、気の緩みによる大きな事故に十分注意し、できなかったことをどうすればできるよ

うになるか、一年間追い求めていこう」と呼び掛け、決起大会では、22年度の班による事故防止の取り組みを発表、安全活動の原点に、「知っている」と「できる」は大きく違ふ。会社

が生き残るには、皆で考えて話し合う文化を持つ社内風土を育てることが重要、平和で穩やかに過すよう会社「丸の班の目標を達成して欲しい」と語った

丸川氏は「安全への取り組みは山登りと同じよう